



保南の風にのせて

<http://www.kusuna-e.edu.city.hiroshima.jp>

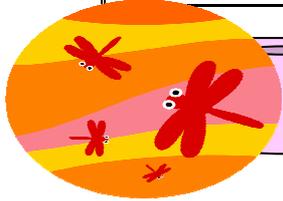
校長 杉山幸子

楠那小だより

臨時号 7号

平成24年

9月14日発行



自分できめる 自分でやめく 9月です

今月のことば

今月は低・中・高学年すべて論語です。

子曰わく、「これを知る者は、これを好む者に如かず、これを好む者は、これを樂しむ者に如かず。」

孔子先生がおっしゃった。「知る」は「好む」にかなわない。「好む」は「樂しむ」にかなわない。(論語より)

子曰わく、「人の己を知らざるを患えず。人を知らざるを患う。」

孔子先生がおっしゃった。「他人が自分の実力を理解してくれないことを嘆くことはない。自分が人のよいところをわかってあげようとなかったことの方が悲しい。」

子曰わく、「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。・・・」

9月11日 避難訓練 (休憩時間中)

孔子先生がおっしゃった。「私は十五歳で学問を志した。三十歳で学問の立場が確立した。四十歳であれこれ惑うことがなくなった。・・・」

本年度は、低学年、中学年、高学年と「今月のことば」を違うものにしていきます。学校中、明るい声で、温かいことば行き交うよう、良いことばを声に出して読む習慣を身につけていきたいものです。

3つの「あ」あいさつ・ありがとう・あとかたづけ

やりぬきましょう



人にやさしい楠那の子

学校のきまりや社会のルールを守る態度を育てます。

3つの「あ」が息づく温かい学校をめざし、規範意識の出発点として、粘り強く働きかけます。

明るく元気なあいさつの「あ」は、「おはよう」「こんにちは」「さようなら」のことばが自然にでてくる姿です。



「ありがとう」の「あ」は感謝の気持ちです。人から何かしてもらったら感謝の「ありがとう」、失敗したときの「ごめんなさい」のことばが自然にできるように育てたいものです。

今まで気付かなかった「ありがとう」に目を向けてみましょう。たとえば、友達が声をかけてくれることや、お母さんが毎日ごはんを作ってくれることや、洗濯をしてくれること、お父さんが会社で働いてくれること、新聞配達の人が新聞を届けてくれることなど、今まであたりまえだと思っていたことが、本当はすべてありがたいことなのです。

どんな小さなことにも、感謝の気持ちをもつことができると、人生もより豊かで、幸せになるにちがいありません。自分が感じたうれしいことに「ありがとう」と言ってみませんか。

また、あとかたづけの「あ」は、あとから使う人のことを考えて、お互い気持ちよく過ごすために必要です。自分のやったことは自分で最後までやりぬくことにつながります。

たった1分で人生が変わる「かたづけの習慣」

多くのモノや情報を取り入れたら、それをうまく消化し、活かし、また、新たなモノや情報を取り入れる。つまり、「かたづけ上手は、生き方上手」なのである。小松 易（日本初のかたづけ士）より



1 「かたづけ」とは、ものごとに「かたをつけ」「リセット」すること

☆ かたづけの第一歩は、「整理と整頓」。さらに、「リセットする」ことである。

★ 整理・・・減らすこと。

★ 整頓・・・使いやすいようにモノを置くこと。配置すること。

☆ 仕事の書類を常に「ゼロの状態」へ戻すことを意識する。机の状態と頭の中の状態はリンクしている。

☆ かたづけをすることで、余計なものが排除されて、本当に大切なモノ、本当にやりたいことが浮かび上がってくる。

2 「かたづけ」ができれば、成功が自動的にやってくる。

☆ かたづけの動作と仕事（勉強）の処理の仕方は同じである。

★ かたづけの基本動作 「出す」「分ける」「減らす」「しまう」

★ 仕事の処理 「優先順位を決める」「どうするか判断する」「することを絞る」「行動する」

☆ 「仕事をしよう」としたとき、やる気になってスッと作業に取りかかれる人と、まず、かたづけから始めないといけない人とは、スタートラインが違ってくる。時間の無駄と「やる気」に影響が出てくる。この小さな毎日の積み重ねが、人生を変えていく。**1分のかたづける習慣が、人生をスムーズにする。**

3 モノが少ないほど、人生は豊かで幸せで充実する。

☆ 「捨てる」・・・入手可能なモノは捨てる。勇気を持って捨てる。

☆ 「捨てる基準」・「使える・使えない」ではなく、「使う・使わない」という基準を用いた方が、かたづけが前進する。

☆ 「捨てる・捨てない」が決められないモノは、一時的に「保留箱」に保管する。

☆ 「かたづけ上手な人」には、本箱や引き出しに余裕：「未来の空間」があり、新しいモノ・情報がどんどん入ってくるようになっている。

無意識に手に持っているモノをどこに置くか、すぐ使うモノか、定位置か、カバンの中か考えていきたいですね。「かたづけ」ができるよい習慣を身につけることが子どもにとっての財産となることを願って。

一人ひとりを大切に ～自分を大切に、他の人も大切に～

平成24年度 楠那小学校人権学習会

平成24年9月7日



9月7日 人権学習会

一人ひとりが個性や能力を十分発揮し、夢を実現するために、学校は日々努力しています。自分を大切に、他の人も大切にするためにはお互いの良質なコミュニケーションが必要です。

<自分の大切さと他の人の大切さを認める毎日のコミュニケーション>

- ・ワクワクするようなあいさつをしよう
- ・プラスの言葉をたくさん使おう {さすが!}
- ・「私はうれしいよ。」「私は悲しかったよ。」という私メッセージを伝えよう。

<もう少し話してみたいくなる聴き方、受容と共感>

- ・相手の言葉を受け止める(最後まで、批判せず、相手の言った言葉をそのまま受け止める。)

<楽しい関わりをイメージして>

- ・「ありがとう」がいっぱいの家庭、思いやりのある言葉のキャッチボールができる家庭

私たち大人が他人の人権を大切にしている姿を日常生活の中で子どもたちに示すことが何より必要です。



敬老の日に向けて 「おじいちゃん、おばあちゃん、いつもありがとう。」

1、2年生が敬老の日を前に、手紙を書きました。その手紙で、元気に過ごす孫の姿がおじいちゃんおばあちゃん伝えられ、元気づけることができたなら何よりのプレゼントになるはずです。



お知らせ よろしくお願ひします

3年生担任 谷口 美樹先生 業務担当 藤本 一生先生

図書館担当 笠嶋 洋子先生



3月まで彩が丘小学校の2年生担任でした。やる気満々です。3年生に寄り添いながらてきぱきと指導しています。



3月まで江波小学校にお勤めでした。高校野球の審判や世話役もしておられます。体力には自信有ります。



これまで、市役所や中国電力にお勤めでした。学校での勤務は初めてで、子供が大好きです。パソコンが得意です。

6月に植えた稲の花が咲き、実りの秋を迎えようとしています。
お米ができるまで八十八の世話があると言われています。草取り、害虫退治、鳥よけ、水の世話……



5年生が総合の時間にかかわっています

日本の移りゆく季節は、すばらしいと思います。春・夏・秋・冬それぞれのよさを感じてみてください。

*右ページから、子ども俳句の続きです。

ゴムぞうり ゆびがいたいよ ゴムだから
夏休み 思い出いっぱい 作ろうね
海の音 貝もきれいだ 貝かざり
あつい夏 ミンミンゼミが 歌ってる
夏の日 サンサンたいよう 元気だな
あそぶとき はしっていつも あせかいて
秋になる ドングリころころ かわいいな
ドングリが ころころきょう走 秋だよね
みのむしは 秋の間に 成長だ
理科室で たくさん学んだ 色々と

松木 厘莉 (二年)
三浦 真菜 (四年)
能瀬 咲蘭 (三年)
杉本 聖奈 (三年)
原 そら (二年)
山田 美沙希 (二年)
厚井 宥里 (四年)
長谷川里緒奈 (四年)
坂本 明里 (四年)
友成 栄斗 (二年)

白露 (はくろ) 9月8日ころ、昼夜の気温差が大きくなり、野の花に朝露がつくころ。空は高くなり、わわやかな風が吹く。暗くなると虫の高く澄んだ鳴き声があちらこちらから聞こえてくる。

金風 (きんぷう) 秋に吹く風。木は春、火は夏、土は土用、金は秋、水は冬があたり、秋の風が金風とされた。

秋微雨 (あきこさめ) わずかに降る秋雨。夏の炎暑にさらされた大地にしみこむ小雨をいう。



4階にあった緑のカーテンです。きれいな花がたくさん咲いています。

続きの俳句は、10月号で紹介いたします。いつもたくさんの俳句をありがとう。